

■第3回コミュニティ再生ワーキンググループ議事概要

| | | |
|---------|--|--|
| 会 議 名 | 新居浜市政策懇談会 第3回コミュニティ再生ワーキンググループ | |
| 日 時 | 平成27年2月6日(金) 13時30分～15時15分 | |
| 場 所 | 新居浜市消防庁舎4階 消防コミュニティ防災センター研修室 | |
| 参 加 者 | <p>委員(21名)</p> <p><各種団体> 日野座長、三並委員、柴田委員、竹内委員、沖委員、星加委員(船木校区活動発表者)、藤田委員、渡邊照子委員、塩見委員、太田委員、越智委員、斉藤委員</p> <p><市職員> 関市民部長、岡松次長、井上主幹、白石主幹、桑内副課長、守長係長、加藤副課長、高橋副課長、沖本主事</p> <p>活動発表者(3名)</p> <p>新居浜校区:新居浜公民館 高田館長</p> <p>垣生校区:垣生校区連合自治会 岡部会長</p> <p>船木校区:船木校区連合自治会 星加会長</p> <p>オブザーバー 高木講師(聖カタリナ大学人間健康福祉学部)</p> | |
| 事 務 局 | 市民活動推進課(2名) | |
| 傍 聴 者 | 5名 | |
| 議 事 内 容 | <p>1 「平成26年度コミュニティ活性化事業」の実施結果</p> <p>川西地区、川東地区、上部地区から各1校区ずつ発表した。</p> <p>(1) 新居浜校区(川西地区)</p> <p>(2) 垣生校区(川東地区)</p> <p>(3) 船木校区(上部地区)</p> <p>(4) コミュニティ活性化事業全般について</p> <p>2 最終全体まとめ</p> | |
| 質 疑 等 | 1 「平成26年度コミュニティ活性化事業」の実施結果 | |
| | (1) 新居浜校区 | |
| | 柴田委員 | 女性の方が大勢いたが何人ぐらい参加していたのか、予算全部で幾らかかっているのか、教えてください。 |
| | 高田館長 | 女性は約50人だと思いますが、もしかしたらそれ以上の人数かもしれません。予算についてですが、文部科学省からは一切食べ物に対する経費が出ません。キャンドル12,000個になると結構のお金がかかります。行政からいただいたお金と、単位自治会からも若干お金をいただき、やり繰りしました。予算全体の額について、柴田委員には、個別にお話しさせていただきます。赤字にならないように何とか実施しています。 |
| | 星加委員 | 昨年、キャンドルアートを観させていただきました。非常に素晴 |

| | | |
|-------|----------|--|
| 質 疑 等 | | らしく、皆で分担すれば、あれだけ盛大なことを出来るのだと感心しました。特に、児童の参加が多いと感じました。子どもが多い行事には自然と親もついてくるし、参加者が増えるので、今後もさらにキャンドルアートを盛り上げてほしいと思いました。 |
| | (2) 垣生校区 | |
| | 太田委員 | 私も地元である泉川校区で環境のボランティアをしているので、垣生校区の6月・9月の遊歩道の草刈清掃ボランティアに、どんな方が参加して、どのぐらいの人数で、どのぐらいの時間で実施したのか、教えていただきたい。 |
| | 岡部会長 | 参加者のうち、17単位自治会に各2名ずつ割り当てし、年間通して垣生山の遊歩道整備ボランティアをしている「よもだ会」の会員から5~6名、山端・本郷・町の青年部から各30名、体育振興会や社会福祉協議会などの各種団体から30名、小学校PTAから親子の参加があり、合計300名程度の参加です。 |
| | 柴田委員 | 私は高津校区なので、いつも垣生校区の公民館報を見たり、地域の人から聞いたりして、垣生山を中心にした活動に関心を持っています。高津校区には観月会がなく、いつも垣生校区に出席させてもらっていますが、新居浜校区の観月会と違う非常に親睦のある観月会が開催されており、垣生校区独自の立派な親睦会だと感心しています。高津校区にはないいろいろな点が、垣生山を中心にした良さを利用しながら活動しており、非常に羨ましく、今後も続けてほしいと思っています。 |
| | (3) 船木校区 | |
| | 塩見委員 | 今回の活動が自治会加入につながっているとのことだが、私の地域では、単位自治会に防災訓練の実施を呼びかけても、なかなか実施できていないのが現状です。今年度は、校区と単位自治会が一緒になって取り組んでいます。先ほどの船木校区の非常持出袋の配布に大変興味を持ちまして、私の校区でどのように実施できるのかというのを考えていました。費用面・意識面でいろいろ苦労があったのではないかと思います。どうだったのでしょうか。 |
| | 星加委員 | 費用は、コミュニティ活性化事業交付金で賄いました。今年度は全部で13自治会が防災事業を実施し、約1,400名が参加しました。例年、9自治会程度は防災事業を実施していましたが、今年は13自治会が実施したので非常に効果があったと思います。船木校区は自治会員世帯が1,900世帯程度ありますが、今年度は、1,000世帯にしか非常持出袋を配布していません。残り900 |

| | | |
|-------|-----------------------|---|
| 質 疑 等 | | 世帯には、来年度に配布しようと思っています。金栄校区も一度に配布しようと考えずに何年度かに分けて実施すればいいと思います。 |
| | 斎藤委員 | 先ほどの活動の中で避難訓練を行っていたが、高齢者は、「実際、私たちはどこへ避難したらいいのか」という不安があると思います。避難訓練では、高齢者も参加し、歩いて避難したのでしょうか。 |
| | 星加委員 | 下池田自治会の活動を例にして言いますと、自治会で14ヶ所の避難場所を決めています。いざという時は、自治会で決めた避難場所に避難するという事になっていて、高齢者や身体障がい者については、同じグループの人が助けて避難場所へ行くと思います。避難場所に全員が集まったら、自治会館へ報告することになっています。 |
| | 斎藤委員 | 高齢者や障がい者を支援する方がなかなかいないということが、私の自治会でも問題になっていました。船木校区は動けない人などを支援する人は決まっているのでしょうか。 |
| | 星加委員 | 全自治会で支援する人が決まっていると言われると、要援護者リストを信用するしかなく、地域援助者が助けることが大事なのですが、要援護者リストも完璧だとは思っていません。私の自治会では、誰が誰を支援するかを決めています。私自身は、いざという時は誰を最優先で避難させないといけないかを頭の中に描いています。要援護者リストで支援する人を決めていても、なかなかしてくれないのが現実です。ご期待に添えない答えですが、今はそのような方法でしか進んでいません。 |
| | 斎藤委員 | 要援護者の避難については、どこの校区でも問題になっていることだと思います。いざとなっても、すぐ支援に行ける状況ではないこともありますので、隣近所の助け合いや支え合いが一番肝心だと感じていましたが、参考に聞かせていただきました。 |
| | 柴田委員 | 七宝台自治会の避難訓練には、防災安全課や消防本部などの市の機関が関わらず、自治会だけで訓練を実施したとのことだが、その時に、自治会役員や防災士の関わり合いがどうだったのか、船木校区全体としてどう思っているのか教えていただきたい。 |
| | 星加委員 | 七宝台自治会には、防災士はいません。消防職員OBが数人いて、学校保健師OBも数人いるなど、個別にあたると知識を持った人が出てきたみたいです。そういう人に訓練の際に講師をしてもらったみたいです。 |
| | (4) コミュニティ活性化事業全般について | |

| | | |
|-----|------|---|
| 意見等 | 三並委員 | <p>各校区で特色ある事業が展開されており、防災については全校区でそれぞれの事情に応じた形で活動されていると思います。それ以外でコミュニティ活性化事業についても、様々なイベントや催しを実施されていると思います。単年度だけで終わらないように、各地域の伝統にして、時代に応じた特色ある事業を展開するためにも、人材育成など継続していく方法を考える必要があると思います。事業を行うには予算が必要で、当然、地域でも努力して原資を生み出していくとは思いますが、それでも限度があるので、行政の力も借りながら予算面も検討して、とにかく単発で終わらずに、長く続けていくことが必要であり、そうすることで子どもが次の時代へ引き継いでいってくれると思います。各校区で事業をしていますが、新たな事業を発掘していただき、校区に応じた事業を長く継続していくような形で取り組んでいただければと思います。</p> |
| | 塩見会長 | <p>私の校区も、今年度のコミュニティ活性化事業交付金で「金栄ふれあいランド～わくわくキッズ王国・ふるさとマルシェ～」という子どもを中心とした事業を初めて取り入れました。最初はどのように進めていけばいいのかという話から始まり、いろいろ喧嘩もしましたけれども、開催時期についても、文化祭前日に開催することで最終まとまり、公民館職員を含む関係者で知恵をしばりながら実施しました。反省会では、「次年度も交付金を継続してほしい。」「今回の事業の中身を変えながら継続したい。」という意見も出ましたので、ぜひ交付金制度の継続をお願いしたいと思います。</p> |
| | 太田委員 | <p>コミュニティ活性化事業交付金制度は良い制度で長く続けてほしいと思います。1つの事業を継続していくと最初のうちは良い案が考えつくが、だんだんネタがなくなって、同じ事業にお金を使うことを繰り返すことが出てくるのではないかと考えています。この制度を長く続けるためには、行政が全国の活動事例の中から参考になる事例を、自治会や公民館に発信していくべきではないかと思えます。人間は考える時に思いつかないこともあるので、そういう時に参考になる資料を行政が発信して、各校区の自治会が交付金を上手く使えるようにしていけば、もっと良い交付金制度になると思います。</p> |
| | 藤田委員 | <p>本日の3校区の発表を聞かせていただき、本当に勉強になりました。角野校区にない部分、コミュニケーションを目的とした校区行事につきまして非常に真新しいものがあったので、角野校区でも適用していったらいいと思っています。角野校区でも公民館を中心とした事業、実行委員会などを開いて三世代もちつき大会・ウォーク</p> |

| | | |
|-----|------|--|
| 意見等 | | <p>ラリー・七草がゆ・登山・運動会・夏祭りなど、他校区と同じような事業を実施していますが、果たして、この事業をやることによってコミュニティが活性化しているのかということを見ると、若干活性化しているという部分が見受けられるが、まだ、「これで活性化した」とはっきり見えていないということがジレンマに陥っているところです。また、角野校区では、私や公民館長が交付金制度を知ったのが事業を実施した後で、情報の伝達がなかったため、連合自治会だけが予算を使って終わりました。次年度以降、交付金制度が継続されるのであれば、予算が全体に流れる方法を考えてほしいと思います。角野校区では公民館を中心とした事業を実施する場合、事業ごとに実行委員会を立ち上げています。他校区の話を知っていると、校区まちづくり委員会の中に行事の実行委員会を設けているシステムになっているようなので、角野校区もこれを提案して、こういうシステムになっていけば、事業が広範囲に拡大されるのではないかと大変勉強になりました。</p> |
| | 竹内委員 | <p>今年度、中萩校区では4事業に取り組みましたが、校区が大きいので、皆さんに事業を知っていただく活動ができていないのではないかと考えています。防災訓練では400名程度の参加者が集まりましたが、校区の規模から考えると、もう少し集まってもよかったのではないかと、広報活動ができていなかったと反省しています。参加者からは、「非常食を自治会で備えるにはどうしたらいいのか」「すごく勉強になった」など、たくさんの意見をいただきました。参加していただけなかった人にどう広報していくかが、次年度の課題だと思っています。中萩音頭の継承事業では、交付金で法被を60枚購入し、芸能祭などで発表させていただきましたが、「こういう踊りがあったんですね」「盆踊りを踊ってみたい」という声をいただいているので、これを継承して、学校にも働きかけて運動会で発表させていただければという話も出てきています。この交付金をいただいたことで、校区が一つになるような課題もありましたし、4事業も取り組めたのでよかったと思います。</p> |
| | 日野座長 | <p>防災には皆さん関心を持っているようで、どの校区も防災事業に取り組んでいるようです。防災安全課から来年度に向けて何かございましたら意見ををお願いします。</p> |

| | | |
|-----|------|--|
| 意見等 | 白石主幹 | <p>昨年12月13日に防災マップの作成に関する講習会を、各校区連合自治会の皆様に受けていただき、来年度、地域防災計画につながるができる防災マップを各校区で作成していただきたいと考えております。校区から地域の防災力を高めるために、自治会員の中から防災士養成講座を受講していただき、地域の自主防災組織で活躍していただけるように養成するようなことを引き続き計画しておりますので、推薦していただければと思います。</p> |
| | 関部長 | <p>今日は、今年度各校区での取り組みを発表していただき、ありがとうございました。発表していただいた3校区では、新しい事業であったり、今までの事業を膨らますということで、多くの人の新しい力添えが必要だったのではないかと思います。先ほどから予算の話が出ていましたが、本当に地域が活性化するのであれば、地域に対してお金をきちんと支援していくことが絶対大事であると思っています。新しく事業を起こすということは、そこに様々な人の力添えをいただかなければいけません、そのことが負担になるというのをよく聞きますが、皆さんの正直な考えを聞かせていただければ、今後の予算化にあたってありがたいです。</p> <p>また、公民館の予算との関係性が話に出てきましたが、地域にとって、まちを活性化するためには、公民館の予算であっても、コミュニティの予算であっても、結局はそこに住んでいる人のための財源であるという考えを皆さんは持っていると思います。ここには公民館連絡協議会の方もいますので、人とお金をどうすれば有効に活用できるかという視点から、意見を聞かせていただければと思います。</p> |
| | 柴田委員 | <p>高津校区では連合自治会と公民館が一体となって、今どういう事業をやっていけばいいのかというのを、自治会とか公民館という垣根をはらって協議しながら、全体を見ながら行っています。現在、高津校区ではまちづくり構想という段階で、実施の段階には入っていませんが、後継者育成や連帯感醸成の中でのいる事業もあり予算も必要なので、この交付金制度の継続をお願いしたいと思います。その内容については、十分審議していただいて構いませんが、地域の課題を最優先で取り組んでいますのでよろしくをお願いします。</p> |

| | | |
|-----|------|---|
| 意見等 | 斎藤委員 | <p>「同じことを何回も繰り返してもいけない」という意見もありましたが、私はそうではないと思います。先ほどの新居浜公民館長からも非常に詳しく説明がありましたが、そこに至るまでの経緯・経過、地域の住民の交流・絆が大切だと思っています。新居浜公民館の例で言いますと、1年目・2年目と同じ事業を繰り返しましたが、まちづくり委員会の役員が必死の思いで、どうしたら皆さんに喜んでいただけるイベントができるだろうかと、2年目は反省を生かして、何回も会を繰り返して、見事に成功させたと思っています。新居浜校区以外からも沢山の人来ていただき「素晴らしいね」と喜んでいただき、新居浜校区だけのイベントにとどまらず、多くの人に来て喜んでいただけるイベントであれば、5年10年できるかわかりませんが、もう少し継続していけば素晴らしいと思っています。女性は、公民館職員や民生委員の人が中心となりしてくれましたが、私は女性の会としてフォローをさせていただきました。100人余りの食事を朝昼晩4日間作るというのは、並大抵のことではありませんでした。ローテーションを組んで出来るだけ大勢の人に参加してもらって、各校区の女性の会の会長に呼びかけをして、普段参加してくれないような方にも依頼したところ、全員が参加してくれました。料理を作りながら交流を深め、地域の人全員がイベントに参画できるのが、地域コミュニティ・素晴らしい絆につながっていくと思っていますので、結果もさることながら、地域の皆さんが喜んでいただければ、このうえないことですが、そこに至るまでの経緯・経過が大切だということを、このイベントを通して強く感じました。その後も活動でも、協力的な声が聞こえるようになり、ありがたく、地域の絆だと感じました。</p> |
| | 日野座長 | <p>太田委員さんは、前進ある継続は絶対大丈夫だが、おそらく、今までの活動例から、ここまで到達したけど、それからなかなか前進しないということを心配されて発言したと思います。新居浜校区みたいに、どんどん前進しているところは継続しないと意味がないと思っていますので、ぜひ続けてください。</p> |
| | 三並委員 | <p>公民館は社会教育課の主管で、コミュニティ活性化事業は市民活動推進課が主管で、確かに事業が重複している部分があります。行政間の話し合いで一本化できるのであれば、予算を一本化して、公民館事業とコミュニティ活性化事業を含めた中で、地域で考えて公民館を含めて活動できるような形の予算組みをお願いします。実際に行っていることが、コミュニティ活性化事業で自治会や公民館な</p> |

| | | |
|-----|------|---|
| 意見等 | | <p>ど地域が主体となつて行う事業と、公民館が主体で行っている事業が、年間通して、日時・場所が違つても結構あります。一本化して効率のある事業活動が、今からは必要だと思います。</p> <p>地域のコーディネーターの方が負担になっているかということですが、確かにそういう地域があるかもしれませんが、事前にその人に対して、じっくりと話をさせていただいて、本人の負担にならない形で行事や事業、活動に参加していただければうまくいくと思います。実際、中萩校区でも話しをさせていただいて、納得していただいたうえで、事業に参加をしていただいています。本人に「負担ではないですか。大変ですよ。」と聞くと、「地域の行事に参加させていただいて非常にありがたい」という声を結構聞きます。事前によく話し合いをしてコーディネーターになっていただくことが、これからの地域の活性化・まちづくりに必要ではないかと思ひます。決して、無理のあるようなことではなく、気安く参加できるような体制づくりをしていければいいと思ひます。</p> |
| | 塩見委員 | <p>今年の交付金について、各校区会長の熱意がどれだけ出ているかというのが、コミュニティ活性化事業実施計画一覧表の中にも出ていました。あるところの会長は、自治会だけで交付金を使えばいいという話も耳にします。公民館と一体となった費用の使い方を考えなければ、片方では「自治会だけが使っている」、もう一方では「私は知らない」というような齟齬が出てきてはいけませんので、今はコミュニティ活性化事業に取り組むという予算の趣旨を知っていただくこと、こういう趣旨で予算が交付されているということが、各校区連合自治会長の中でも差があるような気もいたしますので、今後、中身を公民館・自治会と区別せず、一本化したほうがいいと思ひます。</p> |
| | | 2 最終全体まとめ |
| | 越智委員 | <p>2年間委員をさせていただきました。各校区の皆さんや自治会の皆さんが様々な行事に取り組んでいる中で、新しい行事をされ、人も集めて、いろいろ工夫して、行政の人も指導しながら活発な活動をされているのを痛感しました。このような活動が、コミュニティ活性化につながるし、消防団としても、災害に強いまちづくりができていくのではないかと思ひます。特に感心しているのは、各校区連合自治会含めて、防災訓練を積極的にされていて、若い人からお年寄りまで皆で助け合うという気運がものすごく高まっているのではないかと思ひます。いろんな自治会が訓練をしたり、防災士を</p> |

| | | |
|-----|------|--|
| 意見等 | | <p>育てたりしていることは素晴らしいことだと思っています。消防団としても、地域の皆さんから訓練等参加要請がありましたら、積極的に参加していくようにしていますので、今後ともよろしくお願ひします。</p> |
| | 日野座長 | <p>防災訓練については、現在、新居浜市全体で上部・川西・川東のブロックに分かれて、1年に1ブロック1回しか実施していません。防災安全課と話をしていますが、来年度からは、校区単位、18校区全てで実施することになると思います。1年に1校区しか実施しないことになると、18年に1回しか順番が回ってきませんので、4月以降、全ての校区で実施するようになりますので、その時は、地域あげて、特に消防団にはお願ひしないといけませんので、よろしくお願ひします。今からは、一人一人が危機感を持っていたかかないと難しい時代になってきていると思っています。</p> |
| | 太田委員 | <p>昨年も同じことを言った気がしますが、ワーキンググループのような会議をするにあたって、書面だけで終わるのではなく、これを基に次のステップに進むように、行政も団体も考えていかなければいけない問題だと思っています。先日、仕事の案件で、東京でにはま倶楽部交流会に参加させていただいた時に、たまたま隣に年配の方が座っており、「新居浜に何十年ぶりに帰りました。新居浜も少しずつ変わりつつありますね」という声を聞きました。今日の資料にも載っていますが、防犯のために防犯灯LED化をしたり、コミュニティ再生ワーキンググループにしても、過去には行政からこういう機会をいただけていませんでしたが、石川市長からの提案で、コミュニティ再生ワーキンググループを開催し、皆さんの率直な意見を聞くということをしたことも、新しい取り組みの一つだと思います。形だけで終わるのではなく、これを基に次のステップに進むように、市民全体もそうですし、これに関わる行政の皆さんも次のステップに関わるような考え方、議案を出していただいて、ワーキンググループのような会議で皆さんが話し始めると、様々な意見が出てくる状態になり、それを基に1ステップ進んでいけるとお願ひしますので、今後もこの会議を有意義な形で使っていただければお願ひしています。</p> |

| | | |
|-----|------|--|
| 意見等 | 高木講師 | <p>3校区の発表ありがとうございました。とても興味深く聞かせていただき、他のところでも伝えていきたいと思える取り組みもありました。もっと話を聞きたいと思ったのが、「コミュニティ活性化ってどういう状況なのか」というのを皆さんが考えて実施しているのかということ、「何を自分たちの地区では活性化した状態のように考えていたのか」というのが見えてくると、もっと今回の話は、私にとっても、この会に参加している人にとっても、実感として「変わった」というように思えたと思います。そういう意味では、「今の状態が活性化したコミュニティなのか」ということについて、地域で話し合っていただけるといいと思います。</p> <p>実際に実施した時ですけれども、どこかで求められるのは評価だと思います。これをどのように見せていくのかということも大事になってくると思います。予算を取るとなると、どこかで数字が求められるかもしれませんが、このような事業は数字では測れませんので、「実際に事業の中で、どのような人たちがつながったのか」、「数字上では上手く出せなかったけれど、このようなことができた」と発信していくことができると、もっと良いと思います。地域の人たちに対して、実施したことの情報発信、地域の人が「変わった」と実感できる情報発信、自分たちが実施したことを見える化すること、今回、市政だよりを作られて「自分たちの地域でこんなことをしたんだ」、実施した時はその中にいると分からないですが、終わって、今回の市政だよりのように見せられると「自分たちはこの活動に参加した」、「こういったところが変わった」と実感できますので、実施したことの見える化をして発信していくことを、積極的にしていただきたいと思います。</p> <p>行政から予算がほしいという話もありましたが、予算だけではなく、情報発信する時の知識・技術というの、予算と同時に検討していただく、協働で実施していただくと良いと思いました。全部で51事業がありましたが、一つ一つの事業で情報発信することは良いことだと思います。できれば「自分たちが参加した」、「この事業の中に自分たちは居た」という地域住民の実感が持てるような情報発信を心がけていただきたいと思います。</p> <p>あと2つですが、1つ目が、予算の一本化という話がありましたが、たしかに一本化できれば一番いいと思いますが、組織を変えていくということのは難しいですし、一本化してしまうと専門特化したところが薄まってしまうことがあるので、簡単には一本化はでき</p> |
|-----|------|--|

| | | |
|-----|-----|--|
| 意見等 | | <p>ないと思います。ただ、役所内で調整することはできると思います。情報は集約されますので、そこで調整するという仕組みを一緒につくるということを目指していただきたいと思います。</p> <p>次に、2年間を通してですが、先ほど、意見がありました。続けていくというのはすごく大事だと思います。このワーキンググループは新居浜市全体になってしまっているの、このような集まりの会を校区で作って行って、このように皆が参加している状態を目指していくということが、コミュニティ活性化ワーキンググループを通じて発信していければ良いと思いますので、皆さんが情報発信源となっていますので、この会は終わりますけれども、この後もいろんなところで話をしながら、新居浜を盛り上げていただきたいと思います。ありがとうございました。</p> |
| | 関部長 | <p>2年間貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。特に、昨年、皆さんから様々なご意見を踏まえて、交付金制度であったり、防犯灯LED化であったり、防災訓練であったりが広く展開できたことを感謝申し上げます。この会は一度区切りをつけますが、今まで議論して、まだ積み残しの案件がたくさんあると思います。今日の話し合いだけでも、これから先の公民館と地域との連携であったり、予算的なもの、他にもこれから様々な課題が生まれてくると思います。これから地域の力を生かして、例えば、「地域福祉をいかに進めていくか」、「健康寿命をいかに延ばしていくか」など、様々な皆さまの力が必要になってくると思います。この会がどのような形になるかは分かりませんが、これから先も続けていきたいと考えているところです。また、高木講師の話にもありましたが、今、地域の中でこのような皆さんが議論をする場が、いろいろなところで生まれています。今年は、先ほど柴田委員の話にもありましたが、高津校区では、これまで地域の皆さんが集まって自分たちのまちづくりのこれからの構想を作り、計画を練り上げていくような取り組みも進めています。多喜浜校区では、今年度、県の事業として地域の皆さんが集まって4回のワークショップを重ねて、多喜浜のこれから先のまちづくりの方向性を作り上げていくこともしております。このような取り組みを各地域の中に広げて行っていただき、新居浜全てのコミュニティがより元気になるように、今後ともお力添えをいただけたらと願っております。2年間お世話になりました、ありがとうございました。</p> |